



骨粗しょう症と歯科治療

ビスファオスフオネート製剤に関連して

鎌倉市歯科医師会 福島 宏司

歯科治療には要注意の ビスファオス フオネート製剤

骨粗しょう症は、骨から主成分のカルシウムが溶け出し、骨量、骨密度が減少してスカスカになり、ちよつとした事で骨折しやすくなる疾患です。更年期を迎えた女性に急増し、お薬を飲まれている方も多いかと思ひます。

ところで、この骨粗しょう症の治療に大変有効な、ビスファオスフオネート製剤と呼ばれるお薬が、歯科治療において特別な注意を必要とすることをご存知でしょうか？

近年、ビスファオスフオネート製剤を服用されている方に、抜歯等の外科的な歯科処置を行うと、顎の骨に炎症を生じ、さらに壊死する『顎骨壊死』が起きる可

能性が高まることが指摘されています。

症状がみられたら 早期に対応

顎骨壊死は一度発症すると完全に治癒するのは非常に困難です。ビスファオスフオネート製剤を服用して、次のような症状がみられた場合は、放置せず

に医師、歯科医師、薬剤師に連絡して、早期に対応する事が重要です。●口の中の痛み、抜歯後の痛みがなかなか治まらない

●歯ぐきに白色あるいは灰色の硬いものが出てきた

●顎が腫れてきた

●下唇がしびれた感じがする

●歯がへらついてきて、自然に抜けた

また、顎骨壊死は、口の中が不衛生な状態です。生じやすいとされています。ビスファオスフオネート製剤を服用されている方は、定期的な歯科を受診し、歯ぐきの状態のチェックを受け、ブラッシング指導や歯石の除去などを行って、お口の中を清潔に保つことが大切です。

服用の薬は 歯科医師に伝える こと

今後、ビスファオスフオネート製剤の服用を予定されている方は、歯科検診を受け、必要な処置をあらかじめ終了させておく事が望ましいでしょう。

既にビスファオスフオネート製剤を服用されている方は、服用期間と歯科治療の内容によっては、内科や整形外科の医師との間で打ち合わせをして、一定期間お薬を中止していただく必要がある場合も

あります。

なお、骨粗しょう症以外にも、関節リウマチ、パーシエツト病のような骨代謝疾患、悪性腫瘍の治療をされている方にもビスファオスフオネート製剤は大変に有効で、服用されている方が多くいらっしゃいます。

歯科医院を受診される際には、『歯の治療に お薬なんて関係ないわ』等と思わずに、お薬手帳などをお持ちになって、今、ご自分が服用している薬を必ず歯科医師に伝えるようにしてください。

(ふくしま歯科医院)

